

Corporate
Communication
Book 2018

Heart&Technology

世界のYAMAMURAへ

———心と技術を伝えたい———

コーポレート・
メッセージ

基本理念

商いの基は 品質にあり

山村グループは、心をこめた
製品とサービスをもって、
快適な生活文化に
寄与する。

事業は人なり

山村グループは、
人間を尊重し、
明るい経営を実現する。

革新なくして 未来なし

山村グループは、
常にイノベーションに挑戦し、
燃える集団を目指す。

基本理念は、
山村グループの考え方や
行動を支えるもので、
企業理念の中心となるものです。

Heart & Technology

ハート&テクノロジー

人を信じる心を
大切にする「商いの心」

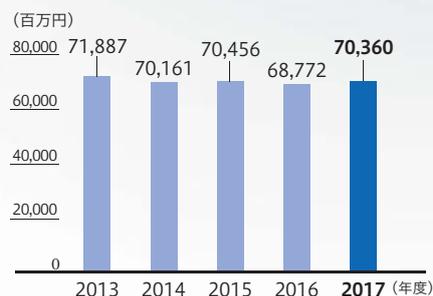
より良いものを
生み出してゆく「匠の技」

このコーポレート・メッセージは、
はつらつとした山村グループのスピリットを
社会に対して特徴づけたものです。

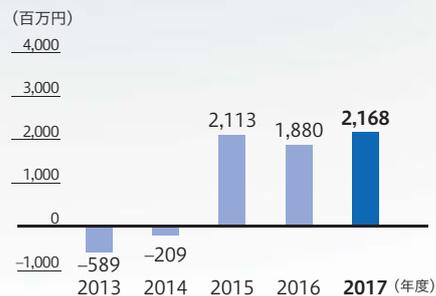
会社概要

商号	日本山村硝子株式会社 Nihon Yamamura Glass Co., Ltd.
創業	1914(大正3)年4月5日
資本金	140億円
株式上市	東証一部
事業内容	ガラスびん・プラスチック容器の製造・ 販売、粉末ガラス・ガラスペーストなど の製造・販売、機器およびプラント類 の設計、製作、販売ならびに設置工事
従業員数	832名(単体) 2,594名(連結) ※2018年3月現在
決算日	3月31日

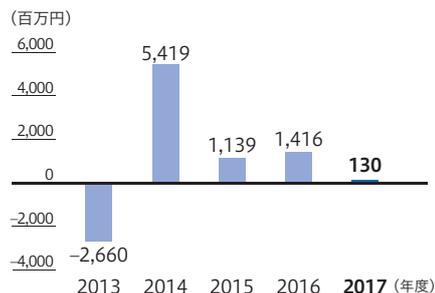
売上高



経常利益



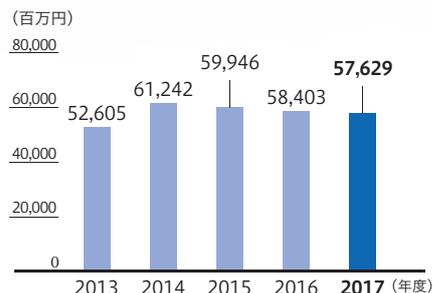
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



純資産



※グラフはすべて連結の財務データです

日本山村硝子の4つのカンパニー 詳細は5-6ページ



ガラスびんカンパニー
国内ガラスびんシェア No.1



プラスチックカンパニー
世界に通用する高性能キャップ



ニューガラスカンパニー
最先端のガラス材料を開発



エンジニアリングカンパニー
びんに関する総合システムを提供

国内関係会社 詳細は7-8ページ
6社

海外関係会社 詳細は9-10ページ
9社

会社沿革

1897年	山村商店 六甲山麓硅砂採掘販売を経営	1987年	兵庫県西宮市にニューガラス研究所を新設
1914年	兵庫県西宮市において山村製壜所として創業	1989年	広島硝子工業株式会社と合併
1922年	機械製壜の研究開発、半人工機械採用	1991年	フィリピンにサンミゲル山村アジア設立
1928年	全自動製壜システム採用(リンチ式)	1998年	日本硝子株式会社と合併、 日本山村硝子株式会社として発足
1946年	戦後操業再開 ルツボ窯、半人工で酒びん製造開始	2004年	中国に展誠(蘇州)塑料製品有限公司設立
1955年	株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足	2008年	山硝(上海)商貿有限公司を設立
1960年	プラスチック容器工場建設、製造開始 機工部(現:エンジニアリングカンパニー)開設	2009年	タイに山村インターナショナル・タイランド設立
1962年	東京都に日硝株式会社(現:星硝株式会社)設立	2010年	インドネシアにサンミゲル山村ウタマ・インドプラス設立 山村フォトニクス株式会社子会社化
1967年	兵庫県西宮市に山村倉庫株式会社設立	2013年	秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)子会社化
1970年	東京・大阪証券取引所 市場第一部上場	2015年	山村ロジスティクス株式会社設立
1973年	リサイクル事業開始	2016年	米国にYGQカリフォルニア設立
1983年	兵庫県西宮市に株式会社山村製壜所設立		

目次

メッセージ/目次 -----	1	国内ネットワーク -----	7	CSR Report 環境(E) -----	13
中期経営計画/ご挨拶 -----	3	海外ネットワーク -----	9	CSR Report 社会(S) -----	17
カンパニー紹介 -----	5	特集「ガラスびんの軽量化に挑む」 -----	11	CSR Report ガバナンス(G) -----	21

循環型社会の実現と、持続的成



中期経営計画（2017年4月～2020年3月）

世界のYAMAMURAへ —— 心と技術を伝えたい ——

<策定のポイント>

- 前2回(2010年4月～2014年3月、2014年4月～2017年3月)の中期経営計画を継承し、今回と合わせ計10年間の取り組みとしています。
- 持続的成長を維持するために、アジアそして世界に誇れる“YAMAMURA”ブランドを確立します。

全体戦略

グループ総合力の深化

グループ間の連携を強化することにより、
グループ内の経営資源を有効活用する

研究開発の推進

独創的な発想で新製品・新技術を創出する

事業戦略

パッケージング事業の収益力強化

安定した収益を確保できる体質への転換を進め、
成長市場におけるさらなる拡大のための経営基盤を確立する

ニューガラス事業の拡大

ニューガラスカンパニーと山村フォトニクスが強みと
相乗効果により、事業規模を拡大する

長を目指して

当社は1914年の創業以来、“循環型社会の実現に貢献する”精神を大切に、ガラスびん製造を事業の柱として着実な歩みを続け、現在では容器メーカーとして不動の地位を築き上げました。2014年には創業100周年を迎え、新しいステージをさらに実り多いものとするため、「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」のキーワードを掲げて戦略的に事業展開を行っております。

これまでガラスびん事業で培ってきたブランド力を基盤に、プラスチック容器、ニューガラス、そして将来の柱となる事業をグループ丸となって育て、確立してまいります。特に容器事業に関しては、東南アジア地域をはじめとした海外展開を重視し、グローバル企業として飛躍すべく、グループ各社の総力を挙げて、事業構造と企業風土の改革を強力に推進してまいります。

引き続きリサイクルの優等生といわれるガラスびんの需要創造に尽力するとともに、日本の容器産業をリードする企業としての社会的責任を果たすべく、循環型社会に適した製品の開発を進めてまいります。

また、当社では1972年にガラスびんのリサイクル活動を原点に環境問題への取り組みを始め、2001年よりコミュニケーションツールとして環境報告書の発行を開始いたしました。その後、当社の環境・CSR活動について、内容のさらなる充実を図るべく、CSR報告書として継承・発展させ、続いて、当社の掲げる理念および事業のご紹介から環境・CSR活動にいたるまで、幅広い内容を総合的にご覧いただけるよう、会社案内とCSR報告書を統合いたしました。

今後も社会から信頼され続ける企業グループを目指して、全社を挙げたCSR活動に取り組んでまいります。

2018年6月

代表取締役 社長執行役員

山村幸治



高品質の製品・サービスを提供

ガラスビジネスの進化の過程で誕生した4つのカンパニーを通じて、お客様に安心してお選びいただける高品質の製品・サービスを市場に提供しています。



ガラスびんカンパニー

業界シェアトップを誇るガラスびんカンパニーでは、1,000種類にも上る豊富な製品ラインアップと、創業以来蓄積してきた技術開発力、そして柔軟性に富んだ生産システムで、広範囲なニーズに的確・迅速に対応するとともに、環境に配慮した商品開発を最重視しています。

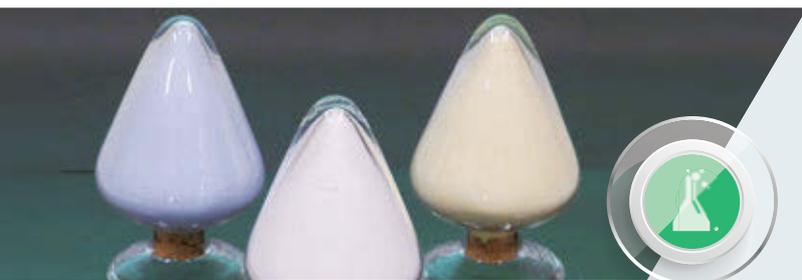
今後は、中国、アジアのガラスびん会社への技術支援による海外展開をさらに積極的に推進するとともに、ガラスびんの需要促進を図るため、高付加価値型の製品開発にも取り組んでいきます。



プラスチックカンパニー

1960年の創業以来、半世紀にわたってプラスチック容器の新たな可能性にチャレンジしてきたプラスチックカンパニーでは、独自に各種ペットボトル用キャップを開発するなど、先進的な製品開発・技術開発を推進し、市場ニーズに柔軟かつ的確に対応できる一貫した生産体制を整えています。

今後は、さらに高性能な新製品を開発し、キャップメーカーとしての確固たる地位を維持するとともに、アジア地域での拡販を積極的に展開していきます。



ニューガラスカンパニー

ガラスびん事業で培った高度な技術をベースに、情報通信、環境エネルギー、エレクトロニクス、自動車、照明などの先端分野で、ニーズに合わせた新組成開発や組成改良、新用途の開発などを推進。研究開発・生産・販売の各部門が一体となって未来を創るガラス材料および無機系新素材を次々と生み出しています。

今後も新素材の研究開発を通して技術力を発揮し、社会に貢献するカンパニーを目指します。



エンジニアリングカンパニー

グローバルな活動を展開するエンジニアリングカンパニーは、製びん設備から検査、パッケージングまでガラスびん工場に係わる設備の設計、製造を行っており、プラント一式の工事も請け負うことができます。また最近では廃熱回収等の環境負荷低減設備も手掛けています。お客様の将来像を見据え、最適なプランをご提案いたします。



ガラスびんカンパニー播磨工場
(兵庫県)



ガラスびんカンパニー東京工場
(神奈川県)



ガラスびんカンパニー埼玉工場
(埼玉県)

ガラスびん国内シェア
(日本ガラスびん協会加盟6社内)

約 **38%**

特長・特性

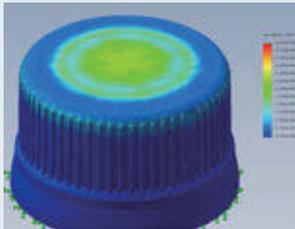
- 高品質保証体制を確立
- スピーディな新製品開発サポート



プラスチックカンパニー関西プラント
(兵庫県)



プラスチックカンパニー宇都宮プラント
(栃木県)



飲料用プラスチックキャップ販売数量

約 **30** 億個

特長・特性

- 一貫した高速ラインによる安全品質と安定供給
- 独自開発の「TENキャップ」



ニューグラスカンパニー鳴尾浜プラント
(兵庫県)



ニューグラスカンパニー尼崎プラント
(兵庫県)



環境関連製品売上比率

約 **30%**

特長・特性

- ガラスの無限の可能性を追求。市場ニーズにあった組成改良と新しい用途開発を行っています。



エンジニアリングカンパニー
(兵庫県)



国内の製びん機シェア

約 **36%**

特長・特性

- 国内唯一のガラスびん製造設備サプライヤー
- 工場運営に重点を置いた設備提案

多彩な事業を日本から発信する

新規事業への取り組みなど、品質とともにお客様の信頼につながる体制の強化に注力し、山村グループとしての力を最大限に発揮しています。

国内関係会社

山村倉庫株式会社

主な事業内容：製造請負、輸送・保管、構内作業

1967年に創業。昨年50周年を迎えました。2015年に山村グループ内業務に特化するために分社化、新生・山村倉庫として生まれ変わりました。

日本山村硝子のガラスびんカンパニー、プラスチックカンパニー、ニューガラスカンパニー、研究開発センターの各製造・保管・出荷の請負や日本山村硝子の関係会社からの業務請負などを行っており、山村グループをトータルサポートしています。



山村ロジスティクス株式会社

主な事業内容：食品物流サービス、保管、配送、警備・管財、人材派遣

2015年11月に山村倉庫より外販部門を承継する形で設立されました。長年にわたって蓄積したノウハウをさらにブラッシュアップして、荷主に対してロジスティクス改革を提案し、包括的にロジスティクスサービスを受託する3PL(サードパーティーロジスティクス)を展開しています。

当社経営理念である「明るく元気に楽しくそして面白く」をスローガンに、3PLのみならず、「庫内作業」「保管」「配送」「警備・管財」「人材派遣」と、あらゆる分野でお客様に満足いただける真のサービスを提供しています。



星硝株式会社

主な事業内容：ガラスびん、包装資材全般、セラーメイト商品の販売、
機械器具の設計・製作・販売

1962年に創業してから2018年に57年目を迎えるに至りました。事業領域はガラスびんをはじめとした容器包装資材、セラーメイト商品の枠を超え、機械器具の設計・製作・販売や広口給水袋の取扱いなど多岐にわたっています。私たちの財産である、お客様と築き上げた信頼関係と知識やノウハウをもとに、新たな価値創造の提供に取り組んでいます。

今後も山村グループの強みを活かしながら、多岐にわたる新たなビジネスモデルの可能性に挑戦していきます。



山村フotonクス株式会社

主な事業内容：電気・電子機器用ガラス部品・LTCC 基板材料の製造販売

1949年の創業以来、真空管用ガラス製品で培ったガラス材料技術および金属とガラスの溶着技術 (Glass to Metal Seal) をベースに、光とエレクトロニクスの複合化製品を提供し続け、現在、ガラス事業、オプトエレクトロニクス関連事業、ガラスセラミックス事業の3分野で事業を展開しています。環境への取り組みとして、全工場においてISO14001を認証取得。廃棄物排出量の削減およびリサイクル、省資源、省エネ活動を推進し、環境配慮製品の開発や厳しい自主管理基準値を設けて環境負荷低減に取り組んでいます。

「光とエレクトロニクス」をキーワードとしたユニークな電子部品の開発・生産に挑戦し、次世代に向け需要が広がる新たな製品創出へ、先端の開発力と技術力で取り組んでいきます。



株式会社山村製壺所

主な事業内容：ガラスびん製造販売

Amazing & Emotion ～お客様のために驚きと感動のボトルを提案します。

1983年の設立以来、日本山村硝子の伝統のもとに独自の生産技術を駆使して個性豊かな製品を創造してきました。ガラスびんは環境にやさしく、色・形・大きさで自由自在。その多様な表現力はオリジナリティを高めます。私たちは業界で唯一、多色・多品種の少量生産システムを構築して市場の多様なニーズにお応えしています。そしてお客様の商品への思いやり、Future Creatorの精神で心から満足いただける製品をお届けします。

これからもお客様第一主義のもと、山村製壺所だからできる技術を駆使し、環境に配慮しながら、驚きと感動のボトルを提案し続けていきます。



日硝精機株式会社

主な事業内容：金型製造販売

1968年、ガラスびん金型製造の会社として神奈川県大和市に設立され、現在はガラスびん金型のほか、多様化するペットボトル用金型および付属品の設計製造、修理を主な業務としています。

月間生産能力は、主型150丁以上、口型1,500丁以上、ペットボトル型60丁以上を有しますが、常に過去最高の生産性を目指して、従業員一人ひとりが多能化を加速させ、組織にとらわれない全体最適な応援体制を築くことを心がけています。

また、近年は若手従業員の採用を進め、ベテランの匠の技を伝承する人材の育成を図るよう取り組んでいます。



事業フィールドを世界に広げて

海外を拠点に事業領域の拡充を展開。

技術援助や共同開発にも積極的に取り組み、グローバル企業としての総合力を高めています。

海外関係会社

秦皇島方圓包装玻璃有限公司(YGQ)：中国

主な事業内容：ガラスびんの製造・販売

1958年設立のガラスびん会社。2013年7月、日本山村硝子の合弁子会社となり、2016年9月に日本山村硝子の独資となりました。日本で培った高度な技術を導入し、高品質のガラスびんを供給することにより、中国国内のみならず、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、スペインなど、海外でも積極的にビジネスを展開しています。



展誠(蘇州)塑料製品有限公司：中国

主な事業内容：TEN キャップ、軽量キャップの製造・販売

台湾のプラスチックメーカーと合併で2004年に設立し、2009年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産しており、中国国内を中心に韓国、東南アジアなどに販売をしています。TEN キャップの販売は順調であり、また商品開発にも力を入れたことで新製品が増えてきています。



山村ウタマ・インドプラス：インドネシア

主な事業内容：TEN キャップ、軽量キャップの製造・販売

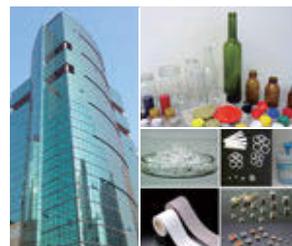
サンミゲルとの合弁会社であるサンミゲル山村パッケージング・インターナショナルとの合併で、2010年に設立。2012年に日本山村硝子の独資となりました。飲料用プラスチックキャップを生産し、現地の日系企業、ローカル企業を中心に、東南アジア、中国へ販売をしています。今後はさらにローカルに根付いた商品開発に取り組んでいきます。



山硝(上海)商貿有限公司：中国

主な事業内容：ガラスびん、ペットボトル用キャップ、機械設備、ニューガラス・光通信用ガラス部品、その他包装資材一般の仕入販売

初の海外営業拠点として、2008年に上海市に設立。2012年には広州事務所を開設しました。2018年には山硝(香港)も設立し3国間貿易を円滑に行える体制が整いました。伸張している中国市場の中で、商社ならではのネットワークを活かし、日系企業・ローカル企業をはじめ、中国内外を問わず営業活動を行っています。



YGQ カリフォルニア：米国

主な事業内容：YGQの米国向けカスタマーサービス

2016年3月の設立以来、YGQから米国向けに輸出するガラスびんのカスタマーサービスを行っています。お客様から近いカリフォルニア州ナバに拠点を構え、YGQと連携して、ご要望に迅速にお応えしています。成長過程にある米国のワイン市場において、拡販を目指しています。



山村インターナショナル・タイランド：タイ

主な事業内容：ガラスびん、ペットボトル用キャップ、その他包装資材一般の仕入販売

タイ大手飲料メーカーであるオソサファとの合併で、2009年にタイ・バンコクに設立した商社です。タイローカル企業ならびに東南アジア市場の日系企業を中心に各種包装資材のみならず、充填・生産ノウハウも含めたワンストップサービスを提供しています。



サンミゲル山村パッケージンググループ

サンミゲル山村アジア：フィリピン

主な事業内容：ガラスびん製造販売

フィリピンのコングロマリット(複合企業)サンミゲルコーポレーションと日本山村硝子の初の共同出資会社として1991年に設立され、ビールびん、酒類びん、食調びん、飲料びんなどさまざまなガラスびんの製造販売を行っています。製品はフィリピン国内だけでなく、欧米、オーストラリア、東南アジア、中東、アフリカ各国へ輸出され、着実にその領域を世界へ広げています。現在ガラスびん製造が2炉8ライン、ACL印刷ラインが6ラインの構成ですが、2018年10月に新YC炉(300t/d、4ライン)の稼働が予定されており、さらに生産能力を拡大し成長しています。

サンミゲル山村パッケージング：フィリピン

サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル：英領バージン諸島

主な事業内容：包装容器製造販売(フィリピン国内外)

サンミゲルコーポレーションと日本山村硝子の共同出資会社として2008年に設立。フィリピン国内外で、ガラスびん、ペットボトル、アルミ缶など、あらゆる包装容器資材を取扱い、新容器開発や充填事業、輸送業など包装にまつわるトータルサービスをお客様に提供しています。



サンミゲル山村パッケージンググループの主な傘下企業

佛山サンミゲル山村パッケージング(中国)

主な事業内容：プラスチック製品製造販売

肇慶サンミゲル山村ガラス(中国)

主な事業内容：ガラス製品製造販売

SMC山村扶桑モールド(フィリピン)

主な事業内容：金型・機械部品製造販売

サンミゲル山村ハイフォンガラス(ベトナム)

主な事業内容：ガラス製品製造販売

サンミゲル山村フーパーッケージング(ベトナム)

主な事業内容：王冠キャップ製造販売

サンミゲル山村パッケージング&プリンティング(マレーシア)

主な事業内容：ラミネート包装資材製造販売

サンミゲル山村プラスチックフィルム(マレーシア)

主な事業内容：フィルム包装資材製造販売

サンミゲル山村ウォヴンプロダクツ(マレーシア)

主な事業内容：工業用ラミネートフィルム包装資材製造販売

コスパック(オーストラリア、ニュージーランド、中国)

主な事業内容：総合パッケージ商社

ポータビン インテグレイテッド ワイン サービス(オーストラリア)

主な事業内容：飲料・ワイン充填

ピノコア(オーストラリア)

主な事業内容：ワインコルク製造

パロッサ ボトリング サービス(オーストラリア)

主な事業内容：飲料・ワイン充填

ベスト ボトラーズ(オーストラリア)

主な事業内容：飲料・ワイン充填

CAN ASIA, INC. (フィリピン)

主な事業内容：飲料缶製造販売

海外パートナー企業 IPGR*メンバー

■ オローラ(オーストラリア)

■ フェビーサ(メキシコ)

■ ヴィーガンド(ドイツ)

■ ベトロパック(スイス)

■ ビドララ(スペイン)

■ シセジャム(トルコ)

■ ギャロ(米国)

■ ブーハーエムハート(スイス)

海外との技術交流と研究開発

IPGR*に設立時から参画し、欧米諸国の各企業・研究機関との共同開発を進めています。

※国際ガラス研究開発パートナーシップ

ガラスびんの



約20%軽量化

胴径1.5mm減

従来びん

470g

**リターナブル
中びん**

380g

セラミックス
コーティング付
軽量びん

キリン株式会社様と共同開発したビール用リターナブル 軽量びん(500ml)で「ワールドスター賞」を受賞

キリン様と当社が共同開発した国内最軽量となる
ビール中びんが、世界包装機構が主催する
「ワールドスター 2018」コンテストで「ワールドスター賞」
を受賞しました。当社独自のセラミックスコーティング技術
を用いて、従来びんより約20%の軽量化を実現しています。



WORLDSTAR
WINNER 2018



もたらされるメリット

製造・物流工程のCO₂排出量(切り替え完了時)

年間約 **1,100** t削減*

資源の節約

輸送効率の向上

エネルギーの節約

※2016年実績を元に算出

軽量化に挑む

最適なパリソン設計と独自のコーティング技術で、軽量化と強度を両立

ガラスびんカンパニー
生産本部 技術開発部 型成形チーム

石橋 英男

一般的に軽くするとびん強度は低下しますが、開発した軽量びんは、外表面に傷を付きにくくし、リユースに耐える強度を維持するために、すでに大びんで採用しているセラミックスコーティング技術を活用しました。従来びんと見た目はほぼ変わりませんが、マイナス90gと大幅な軽量化を実現し、胴径は1.5mm細くなっています。肉厚分布は重要であり、最も苦労したのは強度への影響が少ない首部の余分なガラスを削ぎ、充填工程でびん同士が当たる部分から底部にかけては厚みを残すことができる最適なパリソン(びんの原形)設計でした。

また、びん回収時は従来びんと軽量びん、他社びんが混在するため、自動識別が可能な形状作りにも時間をかけました。軽量化が成功したのは、容器の開発・評価チームを持ち、びんの特性をよく把握されている麒麟様との共同開発だったからこそです。「ワールドスター賞」を共に受賞できたことは光栄で、共同開発パートナーの麒麟様にあらためて感謝を申し上げます。



検討段階から携わった製品が、世界に評価されたことを嬉しく思います

ガラスびんカンパニー
生産本部 品質保証部

大河内 侑

セラミックスコーティング技術は、当社東京工場のみが専用ラインを持ち、安定した品質で供給しています。そのためコーティングについては大きな問題はありませんでしたが、びん裾部の強度アップを目的とした形状変更にあたっては生産開始当初、成形側ラインで倒びんが発生する問題がありました。QCサークル活動で改善に取り組み、現在は安定した生産につながっています。

私自身は開発が始まった2010年の検討段階からテスト生産に携わりました。テスト品の品質評価やアセスメントに立ち会い、テスト結果をもとに麒麟様と打ち合わせをして、課題解決のご要望や確認を行い、東京工場との橋渡しの役割を担いました。

2014年にテスト生産を経て初めての本生産を迎え、麒麟様の工場で充填に立ち会いました。それを飲食店で手にしたときは感慨深いものがありました。「ワールドスター賞」は、当社東京工場ではしか生産できないものが評価され、嬉しく思っています。



共同開発会社の声

妥協しない姿勢で協働できる関係性の維持・発展に期待しています

麒麟株式会社
R&D本部 パッケージング技術研究所

柳田 典子様

日本山村硝子様の確かな技術力と品質へのこだわりへの信頼感から、今回も共同開発を依頼しました。本開発は当社が重要な社会課題としてとらえている「環境」への取り組みの一つです。製造・物流工程における大幅なCO₂削減が実現できただけでなく、ケース重量が軽くなり、飲食店様などからは「運びやすくなった」という声もいただいています。

2016年12月から約10年で、すべてのリターナブル中びんを軽量びんに切り替える予定です。当社では、工程適性や耐久性に対し細心の注意を払ってリスクを想定し、本開発を進めました。日本山村硝子様には基本仕様の検討段階から製造ラインテストまで、期待通りの確かなアドバイスとスピーディな対応をしていただきました。当社が目指す製品に共感し、妥協しない姿勢で協働していただいた結果が「ワールドスター賞」という形で評価され、大変光栄です。今後も共に難しい課題に挑戦できる関係性を維持・発展していくことを期待しています。

CSR Report

— 日本山村硝子のCSR

E 環境
nvironment

S 社会
ocial

G ガバナンス
overnance

編集方針

当社のCSR活動をお客様、株主、取引先、地域社会の皆様にご理解いただくことと、当社の全従業員のCSRIに対する意識向上を図る目的で発行しました。

対象期間

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)

ただし、一部記事によっては、上記以前からの継続事項も含んでいます。

対象組織

本報告書は、日本山村硝子株式会社を対象にしていますが、一部記事においては、山村グループの記事も含んでいます。

発行時期

2018年6月(次回発行は、2019年6月を予定しています。)

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
ISO26000(社会的責任に関する手引き)

当報告書では2017年度の活動を中心に掲載しています。そのほかの情報については、当社ウェブサイト(<http://www.yamamura.co.jp/index.html>)をご覧ください。

日本山村硝子株式会社 CSR広報部会事務局
E-mail:csr_report@yamamura.co.jp

E 環境
nvironment

環境方針

- 1 環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善することにより、環境に対する汚染を予防します。
- 2 事業活動に伴い適用される環境に関する環境関連法規及び社会的約束を順守します。
- 3 事業活動が環境に与える影響を調査・評価し、環境目標を定め、継続的な改善を全員で推進します。
- 4 具体的活動として、以下の項目に取り組みます。
 - (1) 省エネルギー・省資源の推進
 - (2) 環境負荷(大気汚染、水質汚濁、化学物質リスク)の低減の推進
 - (3) 地球温暖化対策・CO₂排出量低減の推進
 - (4) 持続可能な社会実現への3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の推進
 - (5) 廃棄物の減量化及び再資源化の推進
 - (6) 環境改善に寄与する製品開発の推進
 - (7) 環境に配慮した製造設備、機器の開発
 - (8) 地球環境活動への参加

Topics

第21回環境コミュニケーション大賞受賞

優れた環境報告書等や環境活動レポートを表彰する「第21回環境コミュニケーション大賞」(主催:環境省・一般財団法人地球・人間環境フォーラム)で、当社の「Corporate Communication Book 2017」が環境報告書部門優良賞を受賞しました。

今後も、環境コミュニケーションへの取り組みを推進するとともに、環境情報の開示を図ってまいります。



2017年度の環境への取り組み

当社は、環境への取り組みを全社共通の課題とし、環境方針に沿って毎年PDCAサイクルを回すことで、継続的な改善に取り組んでいます。

中でもエネルギー多消費型産業である当社にとって最重要課題は、省エネの推進と地球温暖化対策です。全カンパニー・部門が、エネルギー原単位または使用量の目標を掲げて、目標達成に向けた取り組みを推進しています。また、環境負荷低減、廃棄物削減、環境関連技術の開発、地域環境活動への取り組みにもそれぞれ目標を掲げ、継続的な改善を進めています。

企業活動の基本である法令や社会的ルールの順守については、要求事項をリストアップして定期的な評価を実施し、順守を徹底しています。

これらの取り組みの結果、2017年度は、省エネ法に基づく「事業者クラス分け評価制度」で、2016年度よりも良い実績でAクラスを維持することができました。この制度は、省エネの取り組み状況に応じて事業者をSABCの4段階に分けるもので、2015年から経済産業省が実施しています。

環境への取り組みの一環として再生可能エネルギーの導入も推進しています。2017年度は、当社で4例目となる太陽光発電設備として、プラスチックカンパニー関西プラントにモジュール1,030kW、パワコン容量800kWの設備を導入しました。この設備は自家消費型であり、使用するエネルギーを再生可能エネルギーで自ら作るというエネルギー対策です。

新たな戦略・目標など

「循環型社会の実現への貢献」が、当社の最大かつ不変の目標です。目標を達成するには、二つの戦略が重要と考えています。一つは大量に消費しているエネルギーの削減対策。もう一つは、廃棄物の削減対策です。

全社で統合認証を取得している環境マネジメントシステムISO14001をさらにレベルアップし、エネルギー

消費の削減を推進するとともに廃棄物のゼロエミッション達成を目指します。また、将来的には省エネ法「事業者クラス分け評価制度」で最高ランクのSクラスと評価されることを目標としています。

目標に向けての取り組み

省エネ法「事業者クラス分け評価制度」でSクラスと評価されるためには、5年間平均でエネルギー原単位を1%以上低減することが一つの基準です。この基準とゼロエミッションの達成を目指すため、日々の活動に加えて、技術・機器の開発など、日常の延長線上にない施策も積極的に推進していきます。

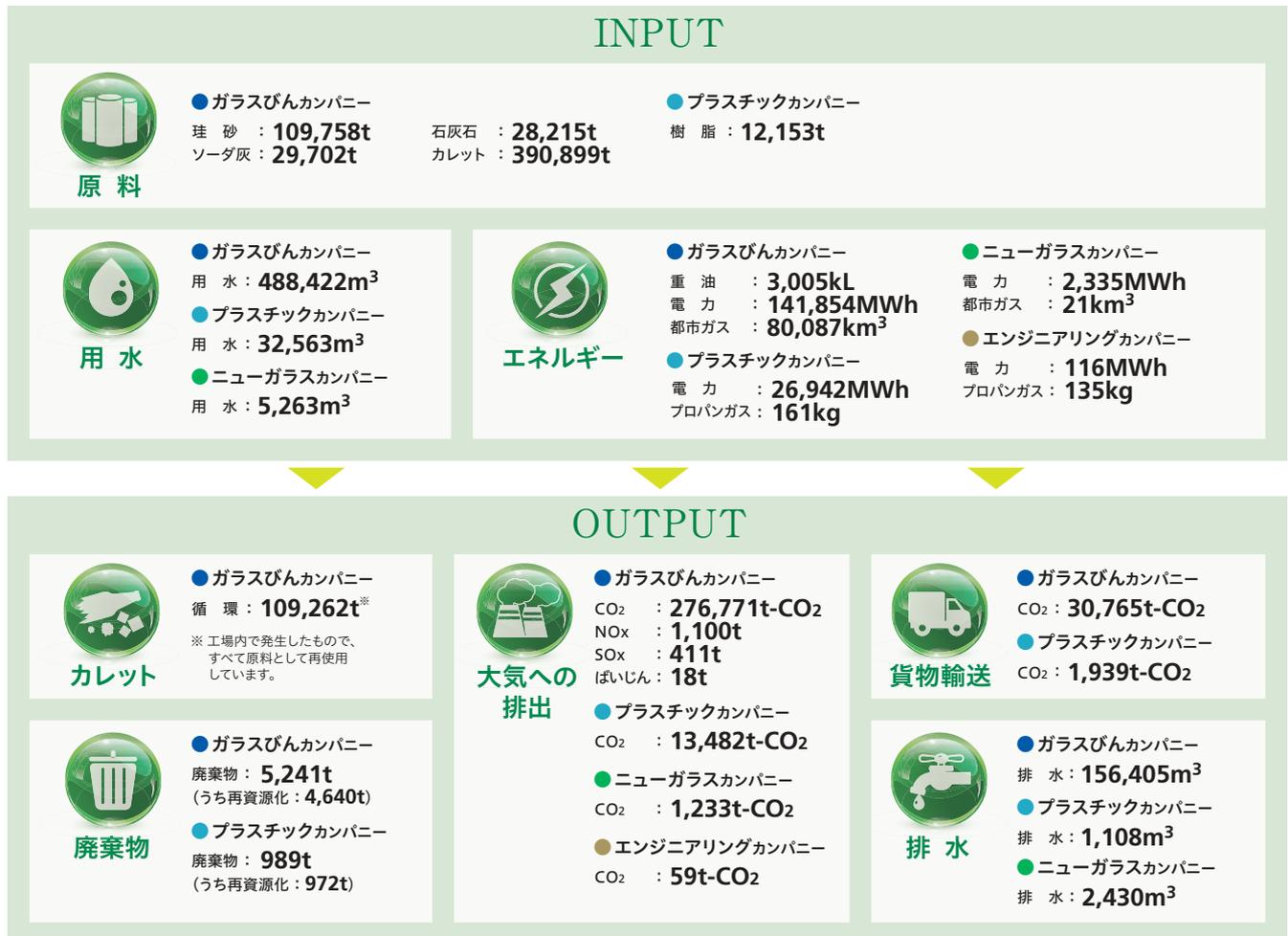
当社の環境への取り組みを充実させるためには、ISO14001の要求事項であり、環境方針にも示している継続的改善を全社で推進して定着させていくことが欠かせません。そのためには、ISOは認証取得を維持するために運用するものではなく、環境活動のために活用するツールであるという認識を浸透させることが重要です。ISOの理解を深め、互いにチェックし合える組織となるよう内部監査員の増加を図っています。2017年度は36名増員して181名としましたが、2018年度はさらに30名以上の増員を目指しています。

環境室 室長

辻 良太



環境負荷の全体像と環境保全活動



太陽光発電の導入

当社は、時代の要請に応じて、再生可能エネルギーである太陽光発電設備を積極的に導入してきました。2012年7月1日に再生可能エネルギーの普及促進を目的として、再生可能エネルギーの全量買い取り制度が始まりました。当社はそれを受け、2013年4月にプラスチックカンパニー宇都宮プラント、翌2014年4月にはガラスびんカンパニー埼玉工場に、売電方式(発電量の全量を電力会社が買い取る)による太陽光発電設備を導入しました。

その後、太陽光発電設備による電力の全量買い取り制度は一定の役割を果たしたとして、再生可能エネルギーは自家消費型の推進へと移行し、2017年2月にニュー

ガラスカンパニー尼崎プラント(植物工場)、2018年3月にはプラスチックカンパニー関西プラントに補助金を活用した自家消費型の太陽光発電設備を導入しました。

関西プラントの設備は、設置面積6,160m²、モジュール1,030kW、パワコン容量800kWと、2017年度の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金、再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業の中では最大規模となり、再生可能エネルギーの自家消費の推進に応えた形となりました。

その結果、太陽光発電による発電量は、400万kWh/年を超え、2,000t/年以上に相当するCO₂削減につながっています。



関西プラント

● 環境保全活動の目標と実績

カンパニー	環境保全活動	2017年度 目標		2017年度 実績		
		上段	2016年度対比	上段	2016年度対比	
		下段	目標値	下段	実績値	
ガラスびん カンパニー	びんの軽量化を推進する		提案件数 年間40件以上		36件	
	工場エネルギー原単位を削減する 原油換算(L)/ガラス製品量(t)		1.0%減 303.1L/t		1.5%減 301.5L/t	
	CO ₂ 原単位を削減する CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)/ガラス溶融量(t)		1.0%減 490kg-CO ₂ /t		0.6%減 492kg-CO ₂ /t	
	SO _x 排出量原単位を維持する SO _x 排出量(kg-SO _x)/ガラス溶融量(t)		— 0.76kg/t		6.0%減 0.77kg/t	
	NO _x 原単位を削減する NO _x 排出量(kg-NO _x)/ガラス溶融量(t)		— 2.3kg/t		4.2%減 2.1kg/t	
	ばいじん原単位を維持する ばいじん排出量(kg-ばいじん)/ガラス溶融量(t)		— 0.033kg/t		13.5%増 0.034kg/t	
	カレット 使用率※1 を維持する	市中カレット※2使用率 市中カレット量(t)/ガラス溶融量(t)		— 52.6%		2.9%減 51.1%
		カレット使用率 [市中カレット量(t) + 工場カレット量(t)] / ガラス溶融量(t)		— 75.4%		2.8%減 73.3%
		廃棄物量(t)を削減する		10.0%減 454 t		19.2%増 602 t
		再資源化率の向上を図る 再資源化物量(t) / 総廃棄物量(t) × 100		1.2%増 91.8%		2.1%減 88.5%
プラスチック カンパニー	工場エネルギー原単位を削減する(ボトル) 電力使用量(kWh)/製品量(千本)		— 399.0kWh/千本		— 413.2kWh/千本	
	工場エネルギー原単位を削減する(キャップ) 電力使用量(kWh)/製品量(千個)		— 6.79kWh/千個		— 6.69kWh/千個	

※1 カレット使用率とは、溶融したガラス中に占めるカレットの割合のことです。
 ※2 市中カレットとは、市中から回収したカレットのことです。

注1) 各項目については、法規制を十分に順守し、満たしています。
 注2) 2018年度については、引き続き、省エネやCO₂排出量削減、大気汚染防止などに取り組んでいます。
 注3) 詳細は当社ウェブサイトの「環境データ集」をご参照ください。
https://www.yamamura.co.jp/csr/pdf/05_data.pdf

ISO14001:2015年版で更新認証

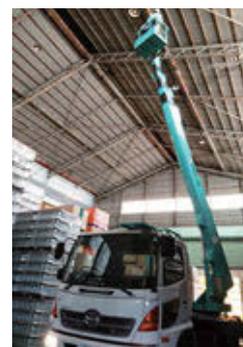
ISO14001は2015年9月に、1996年の初版発行以降2004年の改訂を経て「20年目の大改訂」が行われました。この改訂された2015年版は、事業プロセスとの統合、リスクをベースとした思考、環境パフォーマンス改善を重視といった特徴があります。

当社は、これらを環境マネジメントシステムをレベルアップさせる絶好の機会ととらえ、発表されてからすぐに移行作業に着手しました。外部講師招聘による新規格の研修会の開催、およびOJT等を経て、2017年4月1日より2015年度版の運用へ移行しました。その後12月の審査を受け、2018年1月23日に更新認証されています。

PCB 廃棄物の適正処分

2016年8月施行のPCB特措法改正を受けて、当社は2017年度に開始した廃棄物として保管しているもの以外にPCB含有機器に該当するものがないかの調査をほぼ完了させました。

高濃度機器と確定したものと、低濃度の疑いがあり分析が必要なものをリストアップ。そのうち高濃度機器は処理期限が迫っているため、該当した倉庫照明の安定器も高所作業車による取り外しを随時実施し、期限内に処分が完了するよう進めています。



作業の様子

2017年度の社会への取り組み

当社は創業以来、循環型社会の実現と持続的成長を目指して事業に取り組んできました。さまざまなステークホルダーの期待に応えるべく、社会の発展に寄与する活動に取り組んでいます。昨今は社会環境が大きく変化しており、ステークホルダーから求められる期待も変化しています。その変化に対応していかなければ、当社は持続的成長を果たすことはできないと考えています。

当社の基本理念において、“商いの基は品質にあり”を掲げており、お客様へ安全・安心な製品を提供するために品質向上に取り組んでいます。また、基本理念には“事業は人なり”も掲げ、「人材基盤の確立」を経営方針とし、世界で活躍できる人材の育成、多様な人材の雇用の促進、多様な価値観が発揮できる組織づくりに取り組んでいます。さまざまな職場で働く従業員の安全と健康を確保するために、安全衛生活動や働き方改革に取り組んでいます。さらに、地域社会への貢献も重要な課題として認識しており、環境負荷の低減、地域環境活動への参画、次世代を担うこどもたちの成長に寄与できる活動に取り組んでいます。

Topics

ガラスびんアワードを受賞

※特集で取り上げたキリン株式会社/キリンビール株式会社様の「キリンビール 最軽量ビール中びん(丸正びん)」が機能・環境賞を受賞

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社様の「ポッカレモン100」が日本ガラスびん協会特別賞を受賞

発売当初よりガラスびんを採用いただき、レモン果汁の市場をリードされてきました。「エコロジーボトル」や「点字」の刻印などガラスびんを通して、社会的にも意義のある取り組みを積極的に展開されている点が評価され、日本ガラスびん協会特別賞に選出されました。



株式会社秋田屋本店様の「はちみつDAYS」が富永美樹賞を受賞

茶道具の「尻張型」をガラスびんに応用した形状は、内側の段差をなくし、中味を最後まで楽しめる。美しい曲線を

新たな戦略・目標など

国連は2015年にSDGs(持続可能な開発目標)を採択しました。これには17のゴールと169のターゲットが掲げられ、すべての国の目標となっており、世界各国の組織・団体・企業がこの目標達成に向けて活動しています。「世界のYAMAMURAへ一心と技術を伝えたい」という中期経営計画のスローガンを掲げている当社としても、SDGsの達成に寄与するために、これまで同様に株主・お客様・取引先・従業員・地域社会といったさまざまなステークホルダーの期待に応える活動に取り組んでいきます。

目標に向けての取り組み

- 安全・安心な製品をお客様へ提供するためのさらなる品質向上
- 要求される製品・サービスを実現する高度な技術開発
- 世界で活躍できる多様な人材の育成
- コンプライアンス体制のさらなる強化
- コーポレート・ガバナンスのさらなる実効性向上
- 地域の発展に貢献できる活動に参画

描いたデザインが、食卓に優しさや温もりを演出してくれる。機能とデザインが融合した愛用してみたい商品という点が評価され、富永美樹賞に選出されました。



福祿寿酒造株式会社様の「NEXT5 THE HARVEST 2017」が優秀賞を受賞

造り手の酒造りに対する想いをガラスびんの中で表現。精米歩合を模した米のひと粒ひと粒がガラスびんを通して光り輝き、酒として生まれ変わり注がれるまでのプロセスが、1本のガラスびんで見事に描かれた商品という点が評価され優秀賞に選出されました。



お客様のための取り組み

品質のための取り組み

当社では、基本理念の一つに“商いの基は品質にあり”を掲げています。ガラスびん、プラスチック、ニューガラスの3カンパニーでは、品質マネジメントシステム(QMS) ISO9001の認証を取得し、最新版にも対応しています。

2017年度は、各事業所の自動検査機による全数検査において検査機の新規導入や改良による検査精度向上を行いました。

品質保証の取り組みとしては従来から実施している内部監査に加え、カンパニーのトップによる品質監査なども実施し、管理の仕組みを定着させ、トップマネジメントによる品質改善の意識が浸透してきました。さらなる活動の質の向上を目指していきます。



ISO9001 登録証



ISO9001 登録証付属書

食品安全のための取り組み

お客様へ安全・安心な製品を提供するため、ガラスびん、プラスチックの2カンパニーでは、カンパニーごとの「食品安全マニュアル」と各工場の「食品安全衛生管理規定」を制定し、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるFSSC22000(ISO22000)の認証を取得しています。社内では取り組みが定着し、工場ごとの食品安全チームを中心にしたパトロール、各工程のハザード分析の実施、前提条件プログラムの管理や衛生管理規範による従業員教育により、品質・衛生管理の改善活動を継続的に実施しています。

Topics

植物工場事業の推進

2014年末より生産・販売を始めた植物工場では、発光ダイオード(LED)照明を無線で操り、植物に照射する光の波長や時間を調整して食感や食味を変化させたり、ビタミンCなどの栄養成分含有量を従来の植物工場で作った野菜より増加させることが可能です。

一般的な植物工場がレタス類の生産販売を主業としている中、当社は栄養価が高く、苦みと硬い食感を抑えたサラダ用の美味しいケールやハーブ類の通年安定供給など、当社でしか栽培できない野菜の生産を実現し、お客様から高い評価をいただいています。

また、2018年には自社ブランド「きらきらベジ」を立ち上げ、一般消費者向けの商品展開も開始しました。



「きらきらベジ」ロゴマーク



栄養価の高い野菜を栽培

CSR推進室 室長

山田 隆

社会貢献活動

尼崎に森を作る活動への参加

当社は、尼崎21世紀の森づくり協議会が実施する「尼崎21世紀の森づくり活動」に2013年から参画しています。

兵庫県尼崎市の「尼崎の森中央緑地」にある、当社が担当する200m²の土地を「日本山村硝子の森」と名付け、従業員やその家族が植樹や除草などの活動にボランティアで取り組んでいます。また、「苗木の里親」制度を利用して、これまでに600鉢の苗木を育成しました。

「尼崎の森中央緑地」では、他にも森づくり活動を宣伝するさまざまなイベントを開催しており、当社は「エコキッズメッセ」や「グリーンフェスタ」に参画しています。

各イベントでは多くの子どもたちに、びんの工作を楽しんでもらいながら、リサイクルの大切さやびんの魅力について伝えています。



グリーンフェスタの様子

環境学習プログラムへの参画

当社と(株)山村製壺所は、2003年度から兵庫県西宮市のNPO法人こども環境活動支援協会が企画した環境学習プログラムに参画し、毎年、西宮市内の小学校でガラスびん関連企業4社とともに、ガラスびんの3Rを通じて、持続可能な社会への理解を深めてもらう体験型の環境学習を実施しています。

2017年度は、7月に小学4年生を対象、2018年1月に小学3年生を対象に出前授業を実施しました。子どもたちは、「びんの気持ち」になって各社のブースを回り、金型、びん成形、ラベル貼り、びん洗浄、分別など、いろいろな体験を通して、ガラスびんの3Rを楽しみながら理解を深めていました。



授業の様子

従業員のための取り組み

人材育成の取り組み

当社が持続的発展をしていくためには、従業員一丸となり、世界を視野にイノベーションを創出していかなければなりません。これらを実現するのは、「人=社員」であり、人材基盤をより強固なものにしていくことが求められています。そのために、従業員一人ひとりが自発的に行動する自律型・自立型人材へ変革していくことを目指して、「研修・教育基本方針」に基づいた体系的かつ継続的な研修・教育を実施しています。

その一つとして、技能スキルの伝承と専門性向上のため、若手、中堅層から従業員を選抜し、国家公的資格

取得を支援しています。

2017年度は、新たにエネルギー管理士2名、第1種公害防止管理者2名(大気1名、水質1名)、甲種危険物取扱者1名が合格しました。

多様な人材の雇用・活躍を促進

多様な人材の雇用を促進し、多様な価値観が発揮できる組織づくりに取り組んでいます。障がい者雇用率は2.5%(22名/865名)と、法定雇用率2.0%(2017年度)を上回っています。また、高年齢者の技術・技能を活かし、グループ内での人材の有効活用を図るため、2016年度

に労働条件の改善を図りました。定年退職者12名中10名が継続雇用制度を利用し、後進の指導などキャリアを活かして活躍しています。

2017年度は、女性管理職3名を登用。また、ダイバーシティへの取り組みの一環として、2018年4月に外国人2名を採用しました。今後も多様な人材の積極的な雇用、活躍を推進していきます。

女性活躍推進研修の実施

2017年1月に実施した女性活躍推進セミナー「女性リーダー交流会」に引き続き、2017年度は第2弾として、2018年3月に「女性活躍推進研修」を実施しました。女性社員43名を対象とし、「今までのキャリアを振り返り、さらに一歩前に進むためにはどうしたらよいか、今後のキャリアデザインを考える」「会社からの期待、求められる役割を認識する」というテーマで講義・グループワークに取り組み、研修の最後には各自で今後の「キャリア・ライフ計画書」を作成しました。

また、女性社員の上司25名を対象に、「上司向け女性活躍推進研修」を実施し、「女性社員が



研修の様子

キャリアアップを目指せるよう、管理者としてできることを具体的に考える」「女性社員が活躍できる風土づくりとマネジメント手法を学ぶ」をテーマに研修に取り組みました。

労働安全衛生の取り組み

従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を形成し、円滑に作業を遂行することで生産性の向上を図ることを目的に「安全衛生管理規程」を定め、安全衛生活動を推進しています。

各事業場では、毎月、協力会社も含めて安全衛生委員会を開催し、リスクアセスメント活動や安全活動の基本である、KYT(危険予知)能力の向上にも取り組んでいます。また、年1回、全社の安全衛生担当者が集合する全社安全衛生委員会を開催し、全社での災害状況の把握や対策など、意見交換を実施しています。

2017年度は、各事業場の安全衛生活動の取り組みを議論し、目標を決め、1年間活動を実施しました。



安全衛生パトロールの様子

● 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画 (期間:2016年4月1日~2021年3月31日までの5年間)

課題	目標	取り組み
管理職(課長クラス以上)になりうる女性が育っていない。	管理職の女性を1人以上登用する。	女性管理職3名を登用。女性社員、所属長を対象に女性活躍推進研修を実施。
監督職(係長・主任クラス)に占める女性の割合が低い。	監督職に占める女性の割合を現行4%から6%にする。	4.3%(2018年4月1日現在)

● 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画 (期間:2018年4月1日から2021年3月31日までの3年間)

目標
育児支援制度を継続実施するとともに、働き方改革を実行する。[女性:育児休業取得率80%以上 男性:育児参画拡充]
適正な時間外労働時間を維持する。[月1人あたり平均5.0時間]
計画的な年次有給休暇の取得を促進する。[60%以上]

コーポレート・ガバナンスについて

ガバナンスについて

当社は、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。

企業理念などに基づき、経営の透明性・公正性を確保したうえで、迅速・果敢な意思決定を行うことで、持続的な成長および中長期的な企業価値向上を図るとともに、株主をはじめお客様・取引先・従業員などの各ステークホルダーの信頼に応える経営を行っていくことを、基本的な考え方としています。

このような考え方のもと、当社は2017年、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行し、取締役会の監督機能のさらなる向上、審議の一層の充実および経営の意思決定の迅速化を図り、コーポレート・ガバナンスの実効性向上に努めています。

会社の機関、業務執行、監督など

当社では、取締役会を毎月1回開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。業務執行についてはカンパニー制度・執行役員制度を導入し、適正な権限委譲のもとで執行責任を明確化しています。そのうえで、経営会議やグループ社長会を通じて、情報共有と相互

牽制を図っています。また、当社は監査等委員会制度を採用しています。監査等委員は、取締役会をはじめ重要な会議へ適宜出席し、取締役・執行役員業務執行を監視しています。

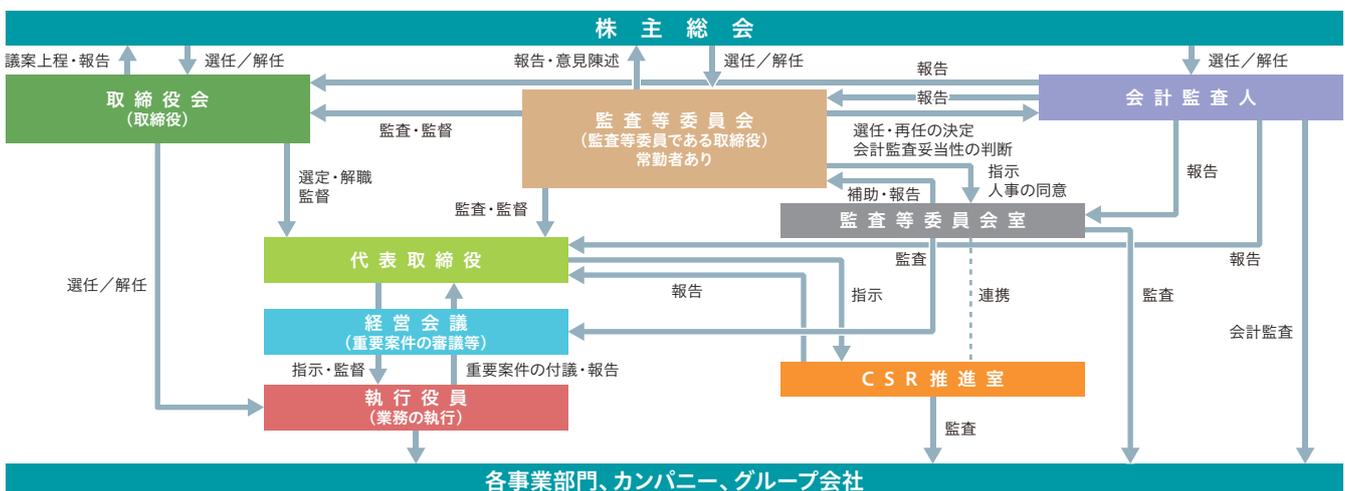
これらの体制をとることで、経営の機動性や効率性を確保しながら、十分な統制機能を働かせることが可能と判断しています。

内部統制について

当社は、適法かつ効率的な経営の実現のため、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役会で決議し、その体制の整備・運用を行っています。業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、コンプライアンス(法令順守)、資産の保全という内部統制の4つの目的を達成するため、「企業活動に関する基本指針・行動基準」をはじめとした社内規程を整備し、その周知徹底に努めています。財務報告に係る内部統制については、当社および当社グループの財務計算に関する書類、その他の情報の適正性を確保するため、「財務報告に係る内部統制の基本方針」を定め、運用しています。

また、内部統制の整備・運用状況については、監査の実効性を高めるため、監査法人と監査等委員会および

● コーポレート・ガバナンス体制



内部監査機能を担う社長直轄のCSR推進室が密に連携しています。監査法人からは会計監査・内部統制監査の結果報告を定期的に受けています。監査結果は随時、被監査部署にフィードバックされ、指摘の内容に応じて改善しています。

リスクマネジメントについて

全社的、組織横断的なリスクについてはコーポレート本部管掌役員が、また、各部門の業務執行にかかわるリスクについては担当部門長が、監視・対応にあたっています。特に経営に重大な影響を及ぼすおそれのあるリスクについては、経営会議で管理責任者を定め、リスク管理の進捗状況を経営会議や取締役会に適宜報告しています。

コンプライアンスについて

コンプライアンスのためにとるべき行動規範を「企業活動に関する基本指針・行動基準」に定め、内部統制担当役員がその周知徹底を担当しています。

法令・ルールの順守状況については、CSR推進室が各部署に対し内部監査を実施し、その結果は、取締役会で報告しています。2017年度の監査では、いずれの部署においても重要な指摘事項はありませんでした。

当社グループでは、組織的・個人的行為にかかわらず、不正・違法・反倫理行為を速やかに認識し、危機を回避することを目的に、内部通報制度を設けています。当社グループの役員、従業員のみならず、契約社員、派遣社員も利用でき、通報は社内イントラネットや投書、専用の電話で受け付けています。

内部通報制度の運用にあたっては規程を整備し、通報者に対し、通報などを理由にした不利益な取扱いを行わないことを明確に定めています。



監査に使用した資料

人権への取り組み

1980年に発足した同和問題研修推進委員会を、1990年に人権啓発推進委員会に改称し、同委員会を主体とした人権啓発に取り組んでいます。人権に関する相談について従業員は内部通報制度を利用することができます。また、各事業所にハラスメント相談員を配置して相談に対応しています。

さらに、当社は「兵庫人権啓発企業連絡会」および「東京人権啓発企業連絡会」に加盟し、各連絡会や団体が主催する研修会や各種行事に、人権担当者をはじめ、従業員も参加して人権に対する意識を深めています。



人権研修の様子

2017年度の主な取り組み

- 社外から講師を招いて講演会を実施
テーマ：アンガーマネジメント
- 社内研修の実施
テーマ：同和問題、外国人、ハンセン病、DVなど
- 人権啓発標語の募集
2017年度応募数：1,656作品(グループ各社1,112名)

執行役員
コーポレート本部 本部長

井料田 保二



ネットワーク

本社

関西本社

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6000 FAX. 06-4300-6387

東京本社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7200 FAX. 03-3348-2349

ガラスびんカンパニー

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6000 FAX. 06-4300-6387

- 東部営業部 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7200 FAX. 03-3348-2349
- 西部営業部 〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6150 FAX. 06-4300-6387
- 西日本営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前4-4-21 グリーンビル7階
TEL. 092-431-6836 FAX. 092-461-0806
- 東京工場 〒252-0146 神奈川県相模原市緑区大山町3-45
TEL. 042-771-5111 FAX. 042-773-7742
- 埼玉工場 〒360-8558 埼玉県熊谷市御稜ヶ原下林611-10
TEL. 048-533-7081 FAX. 048-533-7896
- 播磨工場 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島5
TEL. 079-435-2051 FAX. 079-435-4061

プラスチックカンパニー

〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6300 FAX. 06-4300-6388

- 営業部 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-14-1 新宿グリーンタワービル20階
TEL. 03-3349-7206 FAX. 03-3348-2349
〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6315 FAX. 06-4300-6388
- 関西プラント 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島43-2
TEL. 079-435-5801 FAX. 079-435-5758
- 宇都宮プラント 〒321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地18-1
TEL. 028-667-8631 FAX. 028-667-8641

ニューガラスカンパニー

〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-3431 FAX. 06-6411-3481

- 尼崎プラント 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-3431 FAX. 06-6411-3481
- 鳴尾浜プラント 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-18
TEL. 0798-40-4456 FAX. 0798-40-9144

エンジニアリングカンパニー

〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町111
TEL. 06-6411-7071 FAX. 06-6411-7075

ガラス工房やまむら

〒662-0921 兵庫県西宮市用海町4-28 日本盛 酒蔵通り煉瓦館内
TEL. 0798-32-2556 FAX. 0798-32-2557

国内関係会社

- 山村倉庫株式会社 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6400 FAX. 06-4300-6410
- 山村ロジスティクス株式会社 〒660-0857 兵庫県尼崎市西向島町15-1
TEL. 06-4300-6430 FAX. 06-4300-6412
- 星硝株式会社 〒105-0011 東京都港区芝公園1-1-11 興和芝公園ビル6階
TEL. 03-5401-1741 FAX. 03-5401-1699
- 山村フォトニクス株式会社 〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4207
TEL. 045-930-1811 FAX. 045-930-1814
- 株式会社山村製壜所 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-18
TEL. 0798-43-1301 FAX. 0798-43-1309
- 日硝精機株式会社 〒242-0018 神奈川県大和市深見西4-1-5
TEL. 046-261-9656 FAX. 046-263-1036

海外関係会社

- 秦皇島方圓包装玻璃有限公司(中国)
TEL. +86-335-6085088(代表) FAX. +86-335-6085612
- 展誠(蘇州)塑料製品有限公司(中国)
TEL. +86-512-8160-2158(代表) FAX. +86-512-5357-2665
- 山村ウタマ・インドプラス(インドネシア)
TEL. +62-21-893-6578(代表) FAX. +62-21-893-4636
- 山硝(上海)商貿有限公司(中国)
TEL. +86-21-5208-1258(代表) FAX. +86-21-3208-0005
- YGQ カリフォルニア(米国)
TEL. +1-707-266-1785(代表)
- 山村インターナショナル・タイランド(タイ)
TEL. +66-2656-8700(代表) FAX. +66-2656-8776
- サンミゲル山村アジア(フィリピン)
TEL. +63-2-632-2650(代表) FAX. +63-2-632-3967
- サンミゲル山村パッケージング(フィリピン) /
サンミゲル山村パッケージング・インターナショナル(英領バージン諸島)
TEL. +63-2-702-4200(代表) FAX. +63-2-637-6368 / 69, or +63-2-687-7075

印刷・製造には、これらの配慮をしています。



環境にやさしい『植物油インキ』を
使用しています。

適切に管理された森林からの
認証木材を原料とした
FSC®認証の用紙を使用しています。

有害廃液を排出しない
水なし印刷方式を
採用しています。